

トウガラシの育て方

タネまき

直径7.5センチのポリポットに、市販のタネまき用土などを使ってタネまきします。タネはポットの3カ所に1粒ずつ、1センチ程度の深さにまきます。タネをまいたらたっぷりと水を与え、土が乾かないように水やりをします。育苗期間中は土壌が乾燥しないように日に1〜2回程度水やりをしてください。本葉が3〜4枚ほど開いたら、最も生育のよい株を1本残して間引きます。苗が大きくなってから間引くと、残したい苗の根に間引く苗の根が絡まって傷がつくので、遅くならないように注意しましょう。

気温が上がる5月中旬に定植したい場合は、3月中旬にタネまきしなければなりません。前述のようにトウガラシの発芽適温は28〜32℃と高めです。早まきする場合は、室内の温かい所に置か、家庭用の育苗器や保温マットを使うとよいでしょう。

植え付け

本葉が5〜6枚以上になったら畑に定植します。畝は平畝でもかまいませんが、前述のように水はけの悪い所では高畝にしましょう。肥料は元肥として野菜用の緩効性化成肥料を1㎡当たり100gを施し、畝には乾燥と雑草を防ぐためにマルチを張ります。横間は50センチほど取って苗を定植しますが、根の張りがよくなるように、地面の土とポット苗の土の間に隙間ができないように植えてください。定植後、一番下の葉がマルチに直接触れそうな時は、マルチの上に少し土を置き、マルチと葉が直接触れないようにして、葉が焼けるのを防ぎます。定植直後に十分水やりをすれば、基本的にこれ以降の水やりは必要ありませんが、晴れの日が続いて葉がしおれてくるようであれば適宜水やりしてください。

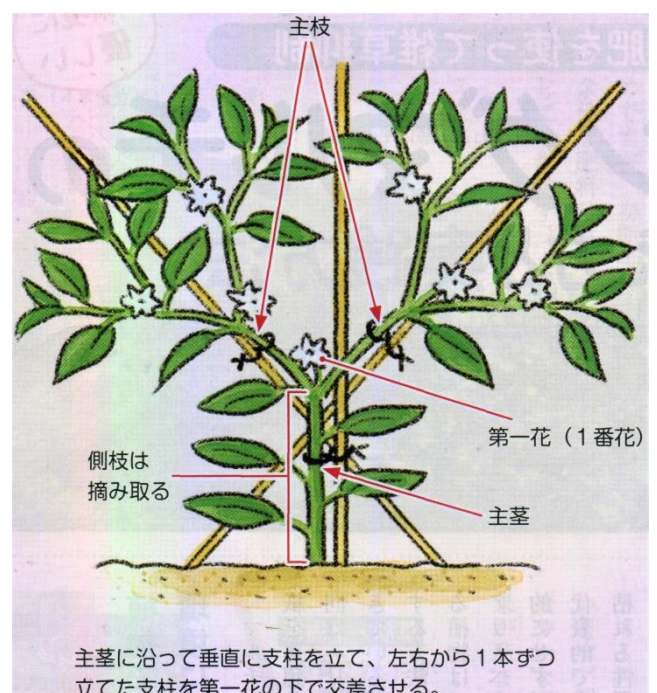
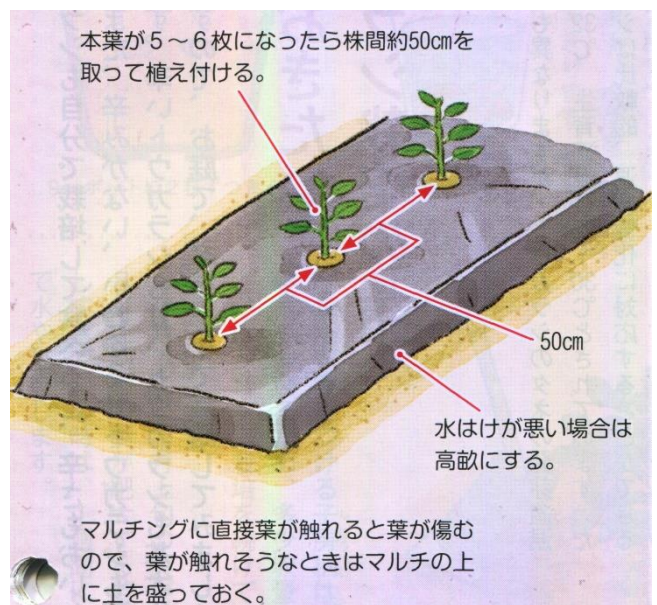
基本的に元肥だけで十分な量を収穫できますが、果実の大きな品種の場合は、開花期ごろから2週間に1回程度を目安に追肥をしてもよいでしょう。

仕立て方

トウガラシは枝が二股に分岐しながら成長します。株が大きくなると倒れやすくなるので、支柱を立てましょう。特に果実の大きな品種や草丈が高くなる品種は要注意です。

主茎に沿って垂直に支柱を立てます。分岐した所に花が咲きますが、第一花が咲く最初の分岐部分に交差させるように斜めに2本の支柱を立てて、計3本の支柱を立てるのが基本の仕立て方です。大きな果実がなる品種は、第一花は摘み取って初期生育を促します。また、第一花より下は芽かきを行い、側枝を抑制し、着果を主枝へ集中させて、より立派な果実をつけるようにします。

小さな果実がなる品種は第一花の摘花や芽かきの必要はありません。特に房なりで上向きに着果する品種は、側枝を伸ばして側枝に房をつけるようにし



ないと収量が得られないので、むしろ「何もしない」のがコツです。

収穫

甘味品種は開花後20～30日程度の未熟果実を収穫します。緑色でも大きくなりすぎると、種子が多くかたくなったり、薄い外果皮がかたくなり食感が悪くなります。

しかし、このような緑の未熟果実を食する甘味品種であっても、成熟すれば赤くなります。赤くなってからは甘みやうまみも出てきて、緑の未熟果実とまったく味が違ってきますので、試しに食べてみてはいかがでしょうか。

一方、辛味品種は果実が成長しきって、緑から赤に色が変わる辺りが最も辛みが強くなり、その後、徐々に辛みは少なくなってきます。ですので、赤くて辛い香辛料として利用するならば、赤くなった直後に収穫するのがよいでしょう。上向き房なりに着果する辛味品種は、赤く揃ったところで一斉収穫することもできます。

